

第二十章 儀礼

四一八 外国の貴賓が傍聴の際、歓迎の意を表した例

第十九回国会外務委員会（昭和二十九年四月十三日）において、委員長佐藤尚武君は「御紹介申し上げますが、インドネシアの国会議長のサルトノ議長がここにお見えになりましたので、皆さんがたちよっとお立ちになりましたして敬意を表して頂きたいと思えます。」と告げ、委員は起立して拍手し、歓迎の意を表した。

その他同例がある。

四一九 感謝決議を行つた例

第一回国会図書館運営委員会（昭和二十二年十月二十一日）において、委員長羽仁五郎君は、ロックフェラー財団のチャールス・B・ファース君からの国会図書館に対するザ・アメリカン・ポリテイ

カル・サイエンス・レビューの寄贈に対し、礼状を發送することを發議し、書簡文案を朗読したところ、委員会はこれを可決した。

第十六回国会中共地域からの帰還者援護に関する特別委員会（昭和二十八年七月二十五日）において、中共地域からの帰還者に対する帰還事務及び生活援護等に関する調査のうち日本人戦犯者のフィリピン共和国モンテンルパにおける実情に関する件の調査に当たり、参考人（教師）加賀尾秀忍君から説明を聴いた後、委員山下義信君は、同君の日本人戦犯の慰問及び釈放についての努力に対し、感謝決議を行うことの動議を提出し、その案文を朗読したところ、委員会はこれを可決した。

なお、同参考人は本決議に対し謝辞を述べた。

第二十四回国会社会労働委員会（昭和三十一年五月二日）において、社会保障制度に関する調査のうち児童福祉事業、親探し運動に関する件の調査に当たり、参考人（朝日新聞社会長代理・東京本社編集局次長）長谷川健一君外四名から親探し運動の実情について説明を聴き、質疑を行った後、委員山下義信君は、朝日新聞社の親探し運動に対し感謝決議を行うこととし、決議案文の作成は委員長に一任することの動議を提出したところ、委員会はこれを可決した。委員長重盛壽治君は、決議案文を朗読し、委員会はこれを可決した。

なお、参考人（朝日新聞厚生文化事業団理事長）加藤祇文君は、本決議に対し朝日新聞社を代表し

て謝辞を述べた。

参照 一六七号

四二〇 委員の逝去につき委員会において弔意を表した例

第五十五回国会内閣委員会（昭和四十二年二月二十一日）において、委員松本治一郎君逝去につき、委員長豊田雅孝君は「議事に先立ち、一言申し上げます。本委員会委員、松本治一郎君は、昨年十一月二十二日逝去いたしました。まことに哀悼痛惜にたえません。同君は、本院初代の副議長としてその職責をつとめられ、また、長く本委員会委員としてその職責を果たされたのであります。ここに、委員諸君とともにつつしんで黙禱をささげ、哀悼の意を表しまして御冥福をお祈り申し上げます」と告げ、委員は起立して黙禱し、弔意を表した。

その他同例が多い。

なお、委員が逝去したときは、委員長は、委員会を代表して、喪主宛てに弔電を発送するとともに、霊前に供花するのを例とする。

四二一 災害の犠牲者に対し委員会において哀悼の意を表した例

風水害、炭鉱の爆発、鉄道又は航空機の事故等による犠牲者に対し、委員会において哀悼の意を表した次のような例が少なくない。

第四十四回国会閉会後の社会労働委員会（昭和三十八年十一月十四日）において、委員長鈴木強君は「議事に先立ち、今次三井三池の鉱業所における爆発事故によってとうとい命を失われました四百五十一名の犠牲者の皆さん、それから、国鉄鶴見事故によって同様とうとい命をなくされたした百六十一名の皆さんに対し、委員会として黙禱をささげ、これより御冥福を祈りたいと存じます。どうぞひとつ御協力いただきたいと思えます。では、黙禱。」と告げ、委員は起立して黙禱し、哀悼の意を表した。

四二二 外国の大統領の逝去につき委員会において弔意を表した例

第四十四回国会閉会後の外務委員会（昭和三十八年十一月二十九日）において、委員長代理理事井上清一君は「委員諸君すでに御承知のごとく、アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディ氏は、去

る十一月二十三日凶弾に倒れ逝去せられました。まことに哀悼の至りにたえません。本委員会といたしまして、この際、議事に入るに先立ちまして、同氏の靈に対し、つつしんで哀悼の意を表したいと存じます。」と述べ、弔意を表した。

第七十二回国会外務委員会（昭和四十九年四月四日）において、委員長伊藤五郎君は「委員諸君すでに御承知のごとく、フランス共和国大統領ジョルジュ・ポンピドー氏は、昨日午前五時逝去せられました。まことに哀悼の至りにたえません。本委員会といたしまして、この際、議事に入るに先立ちまして、つつしんで哀悼の意を表したいと存じます。」と述べ、弔意を表した。

